編集後記

◆ 超巨大ハリケーン「カトリーナ」が，アメリカ南部の中心都市ニューオーリンズを襲い，大きな被害が出ているようです．被害が少しでも少なくすむことを祈ります．地球温暖化のためか，東アジアでも春先や晩秋にまで台風が発生し，かつ大型にまで発達するようになりました．大型台風が強い勢力を保ったまま日本を襲うケースも増えてきたような気がします．この先いったいどんな現象が現れてくるのでしょうか？

◆ さて，今月の地質ニュースは「南米の金鉱床」・「海洋における物質循環」・「火山博物館」・「北欧の文学と地質」・「移動地質標本館」など多彩な内容となりました．

◆ まず，村上・実松氏が「チリ北部マリクンガ帯のの斑岩金鉱床」と題して，チリ北部のアンデス山中にある金鉱床について紹介してくださいました．斑岩（ポーフィリー）型鉱床と言えば銅鉱床の代名詞のようですが，金を産出する鉱床もあるようです．鉱石1t中に金が0.7～2.5gしか含まれない鉱石が多量に処理され，1,000トンにも及ぶ金が回収されるとのこと，日本では考えられません．表紙・口絵の写真と合わせ興味深く読んでいただけるでしょう．

◆ 次に川幡氏が「海洋表層における物質循環研究1−炭素から微量金属へ−」・「海洋中深層における地球環境研究2−炭素循環から微量金属へ−」と題して，海洋における物質循環の研究を紹介してくださいました．前者では，海洋表層における生物活動に伴う有機炭素の動き，生物に取り込まれ濃集された重金属が堆積物として固定されるプロセス，これらに対する人類の活動の影響などについて報告されました．後者では海洋中の粒状物質の挙動を中心に報告され，生物の活動やエルニーニョと重金属の挙動など，興味深い報告をされました．

◆ 池辺氏は「（財）阿蘇火山博物館」の近況を紹介してくださいました．親企業が破綻の危機に陥るなかで，入館者の減少する博物館が，地域の支援を受けながら，新たな運営組織の立ち上げ，NPOや大学との連携など，新しい博物館へ脱皮する経緯が紹介されました．一方，柳澤・谷田部氏は，産総研東北センターの一般公開での「移動地質標本館」の様子を報告されました．全国各地にある多くの博物館は国民にどう役立つのか？ 国民はそれらをどう活用したらいいのか？ みんなで考えていきたいものです．

◆ 蟹澤氏は北欧の地質を童話をとおして紹介してくださいました．氷河に削られた大地・白夜と森と湖の国，ニルスと一緒に，空から眺めることができたらどんなにか素晴らしいことでしょう．

◆ 酒井地質相談所長は「地質相談あれこれ」と題して，年間1,000件を超える地質関係の相談のあれこれを紹介してくださいました．

（須藤定久）

地質ニュース編集委員会
委員長：須藤定久
副委員長：吉田朋弘
委　　員：高木哲一・丸山　正・高橋裕平・光畑裕司・七山　太
連絡先：地質調査総合センター
地質ニュース編集委員会事務局
〒305-8567 茨城県つくば市東1−1−1
Tel. 029−861−3754
Fax. 029−861−3746

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース　第613号　2005年　9月号
定価￥785 (本体価格￥748)　〒実費
2005年9月1日　発行
編　集　**産業技術総合研究所**
発行人　株式会社　実業公報社
代表者　林　光生
発行所　株式会社　実業公報社
東京都千代田区九段北1の7の8　〒102-0073
Tel.(03)3265−0951　Fax.(03)3265−0952
http://www.jitsugyo-koho.co.jp
E-mail: j-k@jitsugyo-koho.co.jp
振替口座　00110−6−32466
麹町局私書箱第21号

© 2005 Geological Survey of Japan
●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります．また，最寄りの書店でも注文できます．